



INTERNATIONAL FEDERATION  
OF PSORIASIS ASSOCIATIONS

第67回世界保健総会は乾癬を重篤な非伝染性疾患として認めました。

乾癬に関するWHO決議が世界保健総会で採択されるという『全世界の乾癬関連団体にとって歴史的な日』となりました。

[2014年5月26日、ストックホルム]

第67回世界保健総会において、WHO加盟国は乾癬が「慢性非伝染性の、苦痛で、外観を損ない、機能障害をもたらす、完治しない疾患」として認めるという決議を採択しました。また、決議は乾癬による心理社会的な負担、多くの乾癬患者が疾患認知や利用可能な治療がないことによって苦しんで知ることも認めました。

IFPA会長のLars Ettarp氏は次のようにコメントしています：

「IFPAはその会員患者会および主要な医学会とともにWHOならびにその加盟国に対して乾癬の深刻な実情を認めてもらえるよう長年訴えてきました。ついに、乾癬とともに生きる1億2500万人以上の人々の声は聞き届けられ、全世界の乾癬関連団体にとってのこの歴史的な日に私たちはこの重要な決議をもたらすことにかかわってくれた全ての関係者、特に私たちの理念に支持を表明してくれたWHO加盟国全てに、心から感謝の意を表したいと思います。」

パナマは乾癬に関する運動や決議を積極的に支持してきたWHO加盟国の一つです。ジュネーブの国連におけるパナマ政府代表であるAlberto Navarro Brin大使は次のように述べています：

「アルゼンチン、エクアドル、カタールとともに、パナマは患っている人々の健康関連の生活の質に重大な影響を及ぼすこの疾患に対する認知を高める必要があることを認識し、他のWHO加盟国の支持を得るべく話し合いを始めました。私たちは今この決議が採択されたことを大変嬉しく思っており、乾癬患者のためのよりよい社会を築くのに役立てるよう市民社会とともに取り組み続けてまいります。」

乾癬の世界的な認知のための権利擁護活動においてIFPAとともに協働してきた関係団体の一つが国際皮膚科学会連盟（the International League of Dermatological Societies、ILDS）です。

ILDS会長のWolfram Sterry教授は次のようにコメントしています：

「私たちの世界規模の組織にはたくさんのメンバーがいますので、一人の皮膚科医として、私は乾癬が日常生活にどれほど深刻な影響があるかをじかに見てきました。私たちは乾癬患者会とともにこの疾患がもつ影響や少しでも負担を軽減するには何ができるかについて政策立案者たちを教育することができます。この決議は乾癬のある人たちが必要としており且つ受けるべき治療がもっと

利用しやすくなるよう政策立案者とともに私たちが更に取り組める基盤となります。」

IFPA事務局長兼IFPA非伝染性疾患特別委員会委員長のKathleen Gallant氏も決議が変化をもたらす重要な基盤であることを認識しています：

「第67回世界保健総会による乾癬決議の採択は、乾癬が苦痛や機能障害をもたらす重篤な免疫介在性の非伝染性疾患であり、その本質は免疫性のものであるということ、多大な身体的精神的影響があること、他のより致死的な非伝染性疾患と危険因子を共有していることに関するより幅広い一般認知が必要であるという強力且つ世界的なメッセージを発信します。これは教育やよりよい理解、この慢性免疫性疾患の破壊的な影響の軽減に向けた集団的な極めて大きな第一歩を踏み出すための非常によい機会となります。」

<以下、省略>